

**EDO-EPS** Expanded Polystyrol Construction Method  
発泡スチロール土木工法

簡易壁面EPS工法のスタンダード! H鋼が不要! 工期短縮・工費削減!

# ウォールブロック<sup>®</sup>

国土交通省 NETIS 登録番号 QS-040024-VE



ウォールブロック<sup>®</sup>は、株式会社JSPの登録商標です。

株式会社 JSP

## 1 ウォールブロック®とは?

### ウォールブロックとは?

ウォールブロック®はH鋼とコンクリート壁面材の変わりに、EDO-EPSブロック(スチロダイアブロック)に、壁面材(軽量モルタル)を一体化した製品です。

床付け基面が完成すれば、壁面部はウォールブロック®,背面は一般的なEDO-EPSブロックを積み重ねるだけで壁体を構築できます(※1)。H鋼の建込み、壁面材取付けが不要なため、工費と工期の縮減につながります。



**H鋼不要**

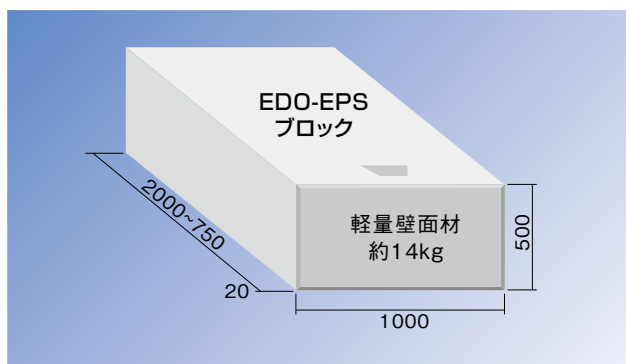


これまで、EDO-EPS工法は軽量盛土工法と言われつつも、安定のためにはH鋼が必要と考えられ、重量のあるH鋼とコンクリート壁面材を用いるのが一般的でした。

2002年に行われた「EPS工法設計・施工基準書(案)」の改定で盛り込まれた全体安定形の考えに基づいて、H鋼とコンクリート壁面材を簡素化した簡易壁体について、各種実証実験が行われ、弊社では「ウォールブロック®」を商品化しました。

(※1)床版コンクリートは従来工法と同じく必要になります。

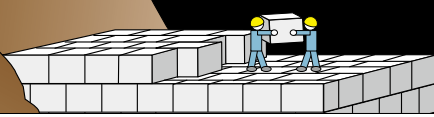
### ウォールブロック®の製品標準形状



#### 軽量壁面材の特性(基準値)

項目	単位	測定	品質
			標準品
外観	—	目視検査	クラックの有無 平滑度
圧縮強度	kN/m <sup>2</sup>	JIS A1108もしくはJIS R5201*	5000以上
曲げ強度	kN/m <sup>2</sup>	JIS R5201	1800以上
付着強度	kN/m <sup>2</sup>	当社法	100以上

※圧縮強度の測定は試験体形状による。



## 2 ウォールブロック®の特長

### 軽量性

ウォールブロック®の単位体積重量は壁面部が約14kg、EPS部が10~30kgです。大型重機の進入が難しい場所でも人手で運搬できる重量です。

### 加工性

ウォールブロック®の壁面部は軽量モルタルを主たる材料としており、コンクリートカッターなどで容易に切断することができます。現場形状に対して柔軟に対応することができます。

### 耐震・耐久性

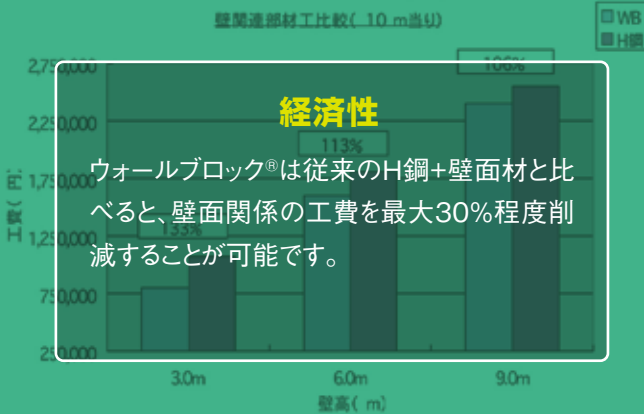
弊社研究所における、10万回荷重載荷試験や振動実験、施工後の動体観測などにおいて、耐震性・耐久性などの確認をしています。施工実績10年の間に壁面剥離、各種震災における転倒・滑動等も起きていません。

### 自立性

ウォールブロック®はEDO-EPSブロックに軽量な壁面材を一体化した製品です。EPSの特性をそのまま生かしているため、自立性に優れています。このため、片直・両直壁での盛土が可能です。

### 経済性

ウォールブロック®は従来のH鋼+壁面材と比べると、壁面関係の工費を最大30%程度削減することが可能です。

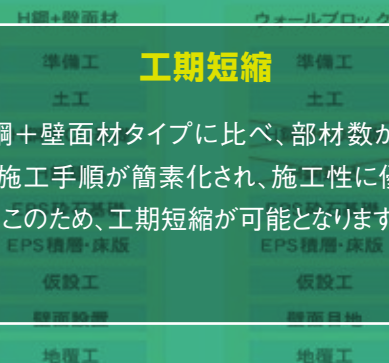


### 施工性

ウォールブロック®は軽量なので人力での施工となります。H鋼建て込みや壁面材取り付けのために、大型建設機械や搬入路を必要としません。狭小地や急傾斜地の施工も可能です。

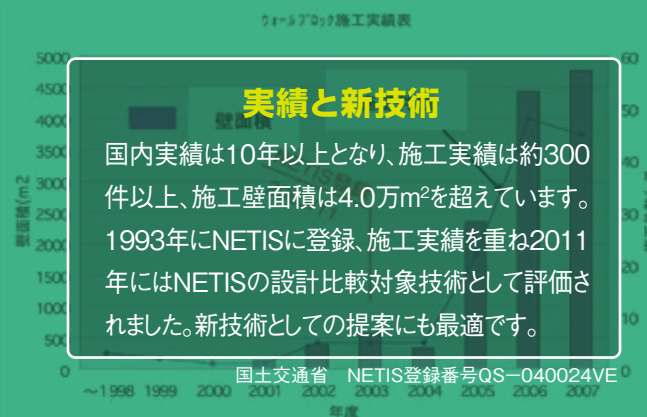
### 工期短縮

H鋼+壁面材タイプに比べ、部材数が少なく、施工手順が簡素化され、施工性に優れます。このため、工期短縮が可能となります。



### 実績と新技術

国内実績は10年以上となり、施工実績は約300件以上、施工壁面積は4.0万㎡を超えています。1993年にNETISに登録、施工実績を重ね2011年にはNETISの設計比較対象技術として評価されました。新技術としての提案にも最適です。



## ウォールブロック®工法の特徴詳細 ～工期短縮～

H鋼基礎やH鋼建て込みが不要なため、施工手順が簡素化され、工期短縮が可能です。

1 土工



H鋼基礎・H鋼建て込み



2 基礎工



3 ウォールブロック®設置



4 緊結金具・L型ピン設置



5 基礎部排水工



6 コンクリート床版



7 上部床版部排水工

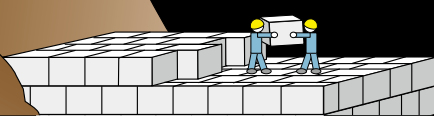


8 目地工



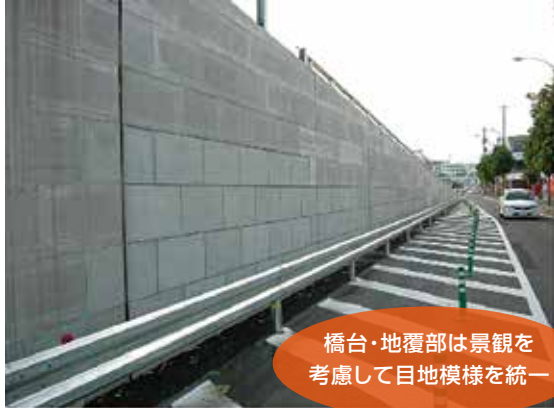
9 完成供用





## 3 ウォールブロック®の施工例

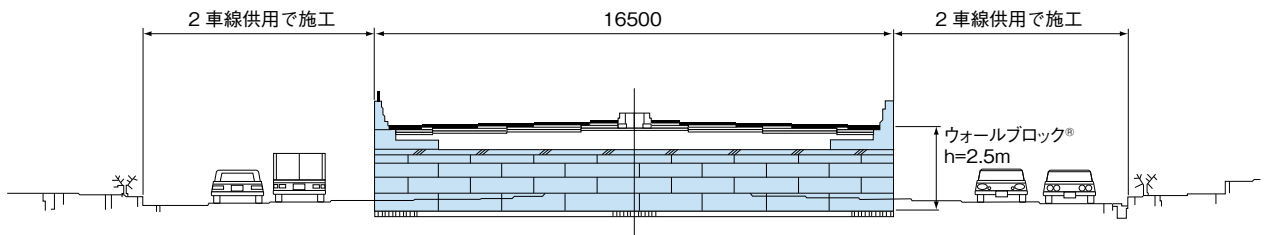
### 都市内立体交差道路の急速施工(両直タイプ)



橋台・地覆部は景観を考慮して目地模様を統一



すでに供用中の都市道路の交差点を立体交差化するため、現在の交通への影響を最小限にして、急速施工することが課題であった。上下線側道部各2車線を規制しないため、大掛かりな仮設が不要で施工の早いウォールブロック®工法が採用された。地覆についても施工を早めるため、残存型枠を採用した。景観にも考慮し、地覆・橋台部にはウォールブロック®工法と同じ目地模様を採用した。軟弱地盤ではない場所での採用であり、珍しい事例である。



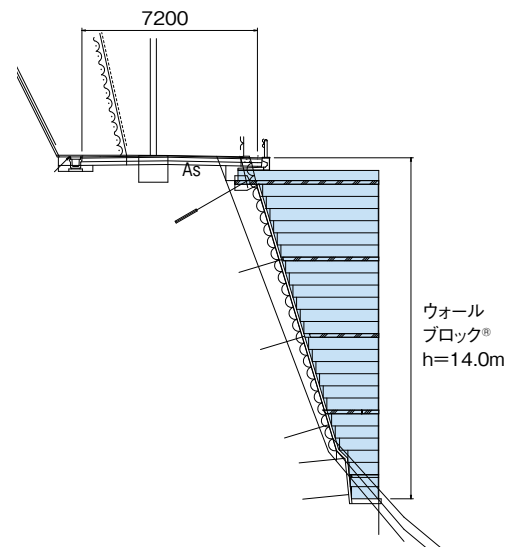
### ■狭小スペースでの道路拡幅

既設道路の拡幅だが、現道が狭く一部区間では交互通行となる状況であった。

急傾斜地であり、H鋼を建て込む仮設スペースの確保も困難であることから、人力施工が可能なウォールブロック®工法が採用された。

現況地盤は岩系で良好であり、現道交通の確保が可能となるよう、EDO-EPSブロックの背面は吹き付け工+鉄筋挿入工が併用されている。

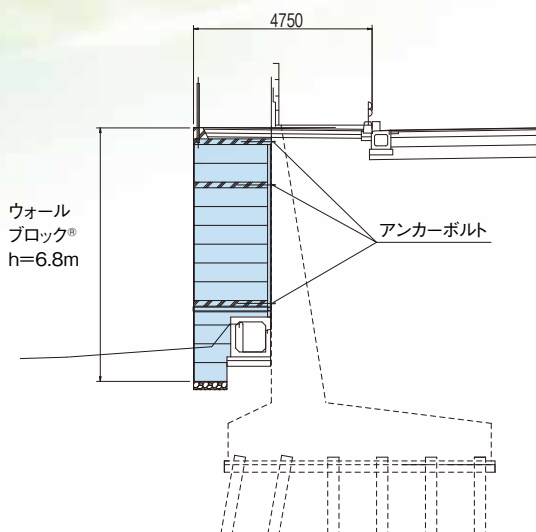
なお、壁高は現在国内実績で最高となる約14mである。(2012年現在)



## 現況歩道の拡幅



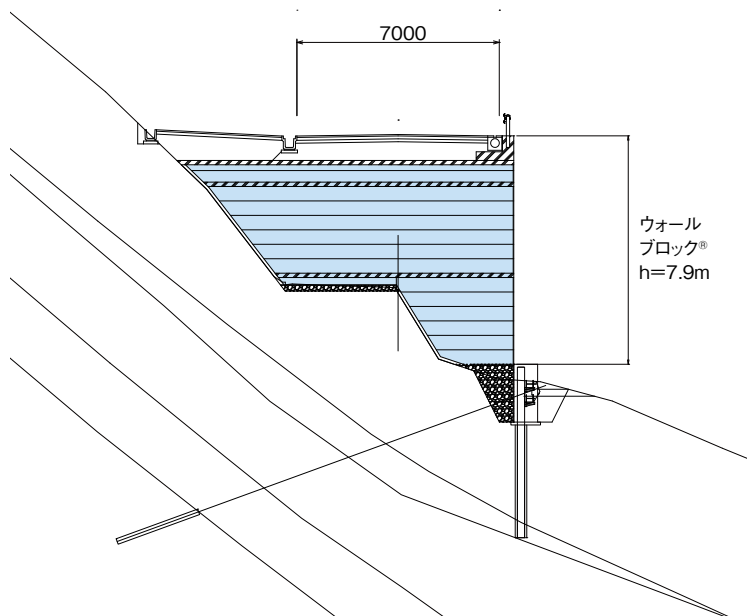
対象道路は非常に交通量の多い道路であり、工事中の交通規制が困難であった。既存擁壁に影響を及ぼさずに施工が可能である、ウォールブロック®工法が採用された。地震時の転倒・滑動は、既存擁壁にアンカーボルトで一体化を図り、対策を行なった。

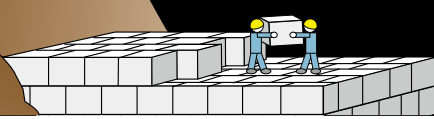


## 地滑り地帯の道路



もともと地すべりの懸念がある地帯であり、地すべり対策が必要な道路であった。地すべり対策をアースアンカーで構築し、ウォールブロック®工法の基礎と併用した珍しい事例である。

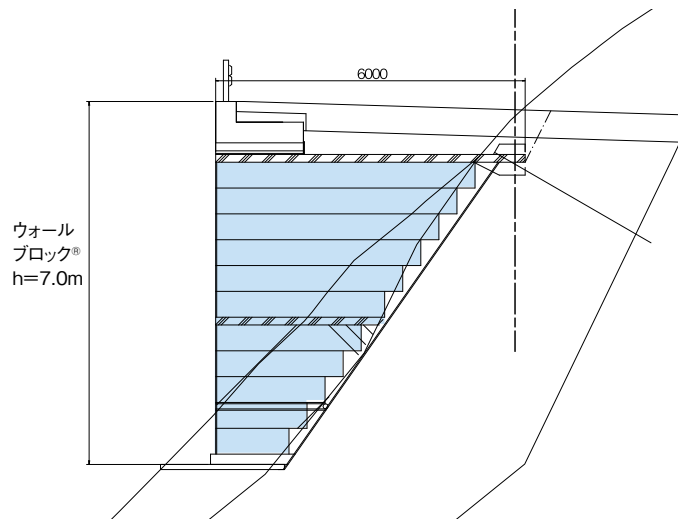




## 急傾斜地での道路構築(急速施工)



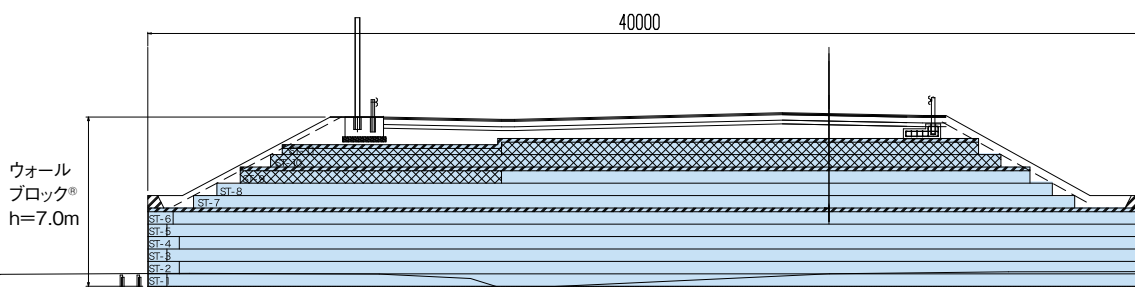
トンネル坑口と橋台までの区間を結ぶ土工区間である。急傾斜地であり、補強土工法などでは切土影響が地山に及ぶため、狭隘なスペースでも盛土構造が構築できるウォールブロック®工法が採用された。加えての採用理由は、道路供用までの工期が非常に短かったため、短期間で施工が可能なウォールブロック®工法が採用された。



## 軟弱地盤対策(橋台背面)



30mもの厚い軟弱地盤であり、圧密沈下の収束が長期化することが推測された。軟弱層が非常に厚いため、地盤改良などは困難であることから、圧密沈下対策として、荷重軽減、道路盛土としての機能維持性に富むウォールブロック®工法が採用された。



## EDO-EPSブロック (ウォールブロック®、スチロダイアブロック) の取り扱い上の注意点

### ■ 火気・高温厳禁

難燃処理が施されていますが、直火に当たると燃えます。高温(70℃)になると軟化変形しますので火気厳禁、高温化での保管・ご使用は避けてください。

### ■ 油分・石油類厳禁

酸・アルカリ類には対薬品性がありますが、ガソリンや灯油などの石油製品で溶解します。油分・石油類厳禁で保管・ご使用ください。

### ■ 太陽光厳禁

太陽光に含まれる紫外線で徐々に表面が変色劣化します。太陽光下での保管はシートで覆ってください。

### ■ 廃棄上の注意

各地方自治体などの廃棄物処理方法に従って処理してください。

### ■ 品質保証

EDO-EPS工法に用いる発泡スチロールブロックには発泡スチロール土木工法開発機構の品質規格適合認定シールが貼られています。EDO-EPS工法には発泡スチロール土木工法開発機構規格適合製品をご使用ください。

### ■ 設計基準

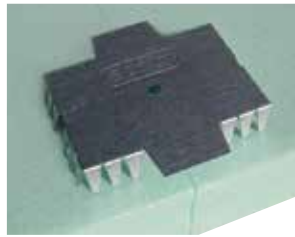
EDO-EPS工法はEPS工法設計・施工基準(案)に基づいて設計を行います。



EDO-EPS工法設計・施工基準書(案)



L型ピン



緊結金具(片爪)



緊結金具(両爪)

## ウォールブロック®の各種実証実験



【(独)北海道開発土木研究所・EPS開発機構】  
1/5模型による振動台模型実験



【(独)北海道開発土木研究所・EPS開発機構】  
1年間常時微動観測、交通荷重載荷実験、  
ガードレール衝突実験など



【EPS開発機構・JSP】  
レベル2地震想定振動実験



【EPS開発機構・JSP】  
交通荷重想定鉛直振動実験



【EPS開発機構・JSP】  
過荷重時の壁面追従性実験



【八戸工業大学・JSP】  
都市内利用想定投球壁面実験

**JSP**

**株式会社 JSP**

第一事業本部 建築土木資材事業部

ホームページ <http://www.co-jsp.co.jp>

土木資材部 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-2(新日石ビル)  
TEL 03-6212-6364 FAX 03-6212-6369  
札幌営業所 〒060-0003 札幌市中央区北3条西1-1(サンメモリアビル)  
TEL 011-231-2681(代) FAX 011-231-7850  
仙台営業所 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-4-1(仙台興和ビル)  
TEL 022-212-3156 FAX 022-266-9583  
名古屋営業所 〒460-0003 名古屋市中区錦3-4-6(桜通大津第一生命ビル)  
TEL 052-962-3225(代) FAX 052-962-3252  
大阪営業所 〒541-0053 大阪市中央区本町1-6-16(いちご塚筋本町ビル)  
TEL 06-6264-7906 FAX 06-6264-7913  
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-12-17(五幸ビル)  
TEL 092-411-6854(代) FAX 092-474-2706

### ■ お問い合わせ先